

わたくし達の自動車

徳久孝



この四月から大きい組になりました子供達は、製作にお遊びに、目立って変って参りました。先生なしでもよくお外で遊べるようになりましたし、製作では木工等を非常に好むようになりました。

『先生、僕に金槌貸して』

『僕に鋸頂戴』

と、朝お室にはいると直ぐから大工道具の請求でございます。ちようど金太郎の立絵をする為に、めいめいのお家からお菓子折の空を持ち寄りましたが、蓋だけを立絵に用いまして身の方が残りましたので、早速これで飛行機、電車、ロボット等色々な物が作られました。

何時もよく喧嘩をする子達が、お互に木をおさえ合ったりし

て、永い時間飽きることなく続けております。こんなに皆が木工に興味を持っているなら、独りひとりの製作もよいが、共同して大きな製作をして見たらどうかしら。ちようど先学期、女の方にお人形さんを作りましたので、お人形を連れて遊びに行くことの出来るような物を作りたいと思いました。或日電車作りの一団のお手伝いをしながら「この電車に乗れるといいわね」と申して見ますと、

『うん、いいね、大きいの作れば乗れるよ』

『じゃ皆で作りましたよか』

『そうだ、作ろうよ』『作ろう』と男の子達はすぐに賛成してくれました。

『先生この板がいい』と木片の一端を持って、もう作る積り

でおります。

『その板は弱いでしょう、だから皆が乗ったらすぐ折れてしまいますね。材木屋さんに行ってもっと丈夫な板を買って来て作りましょう』 『そうしたら、僕に切らしてね』 『僕にもね』と、忽ち予約です。

『それでは電車、汽車、自動車、どれにしましょうね。友達皆さん御相談して見ましょう』と云うことになって、早速ご相談を始めました。自動車、電車、汽車、ケープルカー、飛行機、タンク等色々出て来ましたが、自動車が一番多いようでした。『いいなあ、乗れるような大きいのを作るんだって』

『嬉しいね』と子供達はニコニコして、暫くの間色々な自動車の話で持ち切っておりまして。それから二、三日の間、型を考えたり、設計をしたりしてごたごた過しておりますと、

『先生、自動車どうしたの』『まだ作らないの』と矢の催促でございます。これではならぬと、兎に角子供が乗って動かせるもの、五、六人乗って毀れないようにということと条件として、いよいよ製作に取りかかりました。実習生と一緒に、或子供は材木屋さんに、或る子供は釘を買いに出掛けて、皆の顔が希望に輝いているかのように見えました。板が参りますと、子

供はもう大喜びで、私共が赤い鉛筆で線を引いて上げるのもどかしく、板を切ったり、釘を打ったり致しました。

ちょうど五月の月に入って、すがすがしい五月晴れの日が続きましたので、お室の中で大工さんもしたい。然しこのよい天氣にお外に出なくては、と思ひましてお庭に大工机やら、板を運んで致しましたことも幾度かございました。背中一ぱいに五月の陽を浴びて、お友達に持つて戴いたのでは足りなくて、自分が板の上に乗る、顔に汗を一ぱいにじませて切っている光景は、本当にほほ笑ましいものでございました。

この製作に取りかかりましてから約二ヶ月、子供達も私共も、忙しい、張り切った日々を過して参りました。

「明日の朝迄にどの位出来ている」と楽しみに帰って行きまして子供達の為に、少しでも余計に作って置いてやりたいと、汗びっしょりになって、暗くなる迄トンカチトンカチ致しましてすっかり疲れて帰りました日も幾日かございました。けれども、これは本當に愉快な疲れでございました。私共は大体乗車の積りで設計をして作って参りましたが、子供達はその時々によりまして、乗用車にもなれば、乗合い、デパートの送迎車、円タク、貨物自動車等色々の物に致しております。

(本誌二頁写真参照 昭和七年七月記)